

特集Ⅰ

中等教育研究の諸課題

名古屋大学教育学部附属中・高等学校は、平成12年度より普通科タイプの併設型中高一貫校として発足した。そして研究開発校として『『高大の連携』を生かした『青年期のキャリア形成』－総合的学習の発展を軸とした併設型中高一貫カリキュラムの開発－』に取り組んでいる。

今回の研究開発においては、全国に先駆けて取り組んできた総合的学習「総合人間科」において、中1と高3において「生き方を探る」をテーマにしており、「青年期のキャリア形成」に関わる教科を実践してきたことを踏まえて、六年一貫教育の流れの中で青年期のキャリア形成に資する新しいカリキュラムを開発しようとするものである。

12年度は研究開発の内容に関わる「テーマ」で4回の研修会が附属学校で持たれた。講師はいずれも教育発達科学研究科のスタッフである。

第1回研修会の「ソーシャルライフ」（6月15日）は、吉田俊和教授を中心としたグループによる、中学1年生を対象にしたヒューマンプログラムの中の「ソーシャルライフ」の（社会的コンピテンスを高める）授業の取り組みについてのレクチャーである。「高大の連携」による心理学的知見を生かして、これまでの中学の教科ではまったく扱われてこなかった「社会人になるための基礎を形成」する新たな授業の試みであるとの話が展開された。

第2回研修会の「キャリア発達」（7月13日）は、金井篤子助教授によるキャリアの定義と組織の中におけるキャリア形成についてのレクチャーである。組織の中での「メンタルヘルス」（自分が生き生きと働いていくこと）は、自己実現と深く関わり「キャリア形成」ということがキーワードであるとの提起があった。

第3回研修会の「キャリア教育」（12月6日）は、寺田盛紀教授によるキャリア教育についてのレクチャーである。キャリア教育の全国的な動向と、総合的学習との関連でのキャリア教育の現状から、将来の普通科高校のキャリア教育のあり方について指摘があった。

第4回研修会の「情報化時代の教育に何が求められているか」（平成13年2月26日）は、総合情報教育棟の完成にあたり、大谷尚教授による「情報化時代の教育」についてのレクチャーである。併設型中高一貫カリキュラム（1・2・2・1制）における情報教育は、今後の研究開発の基礎であるとの課題が提出された。

以上4回にわたる研修内容はいずれも中等教育研究の基本課題であり、附属学校でこれから具体的に研究開発していくべきテーマに関わり、中等教育研究センターの重要な開発研究課題である。そこで、4人の講師の講演記録について、「情報」「キャリア」「ソーシャルライフ」の課題順に掲げる。掲載に際しては、いずれも各講師によって大幅な加筆修正が施された。（編集部）